

八尾町では、毎年九月一日から三日にかけて「おわら風の盆」という富山県を代表する祭りが開催され、約二十万人の観光客が訪



おわら風の盆

す。神通森林事務所は、富山県の中央、富山市八尾町に位置し、富山市（旧大沢野町・大山町・細入村・八尾町）に所在する七団地、約九千畝の国有林を管理しています。

【富山森林管理署 神通森林事務所】  
森林官 住 裕介



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。



長棟国有林 針広混交林

れ、大変な賑わいを見せます。この時期は、台風が到来するので収穫前の稲が被害に遭わないよう、豊作祈願が行われたことから、「風の盆」と言われているようです。踊り手たちは、町の道筋で涼しげな揃いの浴衣に編笠の隙間から少し顔を覗かせながら洗練された踊りを披露します。



白木峰頂上の地塘と浮島

当署で唯一の生産事業を行っている長棟国有林は、富山市南部の岐阜県飛騨市との県境に位置し、事業実施に重要な役割を果たしている長棟林道は、併用林道を含めると、総延長は五十七キロメートルにもなります。



巨大立山スギと筆者

主に雪の影響で根元が大きく曲がっているのが立山スギの特徴で、一般のスギより材質が堅く豪雪地の富山県では、ヒノキよりも建築材として多く用いられます。なお、本国有林では、一六二六年に鉛山が発見され、一六四四年頃までに、年に六万貫（一貫は三・七五キログラム）程の鉛が採掘され、家数三百軒、小屋八百軒の長棟村として栄えました。昭和の初めには廃村となりましたが、その跡地が今でも確認できます。

富山市南西部と岐阜県飛騨市の県境に位置する野積国有林には、白山水無県立自然公園に指定された標高一、五九六メートルの「白木峰」があり、頂上の広くゆつたりとした大草原には多くの池塘が点在し、浮島も見られます。

また、毎年七月十日前後にはニッコウキスゲが木道を覆う勢いで群生し、多くの人が訪れます。山頂からは北アルプス、御嶽山、白山などが望め、初心者や子供でも登りやすいことから人気のスポットとなっています。

■未来の担い手へのメッセージ  
今年度から、森林官となり、地域や関係機関の方々と連携して森林整備を行ってきました。間伐することによって林内に光が入り、明るくなっていくことが日々実感できる森林整備には、やりがいと大きな達成感を感じました。次世代に引き継ぐ山を手入れし、森林整備に汗を流してみませんか。

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。



富山県西部森林組合氷見支所

高林 美沙  
(二〇一八年入社)



無花粉スギ植栽現場にて

■事業の概要

請負事業・森林環境保全直接支援事業

援事業

本事業は、氷見市の北部、海越の立山連峰を望む富山湾のすぐそばに位置する大境地区の民有林において受託した、間伐・更新伐・竹林整備等の森林整備事業です。適切な森林施業の実施により、森林の有する多面的機能を向

上させるとともに、将来の主伐に備えた環境を整備することで、「伐つて・植えて・育てる」循環型林業を目指しています。

■現場での役割、魅力

当組合では、提案型集約化施業を軸に事業を展開しています。その中、私は、森林施業プランナーとして、地域森林管理のための施業提案や合意形成、森林経営計画の作成、現場施業の設計並びに実行等、事業プロジェクトのコーディネートを行ってしています。また、昨年から、ドローンによる空撮動画を活用し、森林の現況を森林所有者へ伝えつつ、目標林型



ドローンによる森林調査



間伐後のプロット調査

や森林ゾーンニング等を示し、最適な施業を提案する取組にも挑戦しています。

林業といえば「山の中で木を伐る仕事」をイメージする人が多いと思いますが、私もその内の一人でしたが、ただ山の中で木を伐るだけではなく、例えばスギを伐つて木材として出荷するまでには、植栽・下刈り・枝打ちや間伐などの工程があり、多くの手間と年月を掛けてようやく出荷することができま。私の仕事も、その過程の中にありますが、自分が携わった森林から将来立派な木材が出荷されることを想像しながら働くことにとてもやりがいを感じています。

■森林・林業の世界に

入ったきっかけ

幼い頃から自然や動物が好きで、大学では地球環境問題などについて学びましたが、卒業後は林業とは全く関係のない仕事に就きました。趣味のアウトドア活動などを通じて、改めて山の魅力を感じ、山に関わる仕事をしたいと思い、農林水産公社の林業担い手セ

ンターを通じて女性でも活躍できる仕事があるよと紹介されたのが森林組合でした。

■未来の担い手へのメッセージ

今は機械化や道具の進歩もあり、現場で活躍する女性も増えています。かつて「3K」といわれた林業も、ICTの導入により効率化し、作業環境の改善や6次産業化などを背景とした新しいビジネスチャンスも見いだせるようになってきています。高齢化や少子化などで担い手不足が叫ばれる昨今、成長産業へと転換期を迎えつつある林業は、これからもっと魅力的な仕事になっていくと思います。森林を整備することは地球環境を守ることもつながります。美しい日本の自然を将来の子供たちに受け継ぐために一緒に頑張りませんか。



踏査をして森林経営計画を作成する

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の林道や治山工事などを行う林業土木事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。

シリーズ

「林業土木業界からの便り」



加藤土木株式会社

中谷 勝

(二〇一六年入社)



作業状況を確認している筆者

事業の概要

請負事業：平湯（安房谷） 水源

地域整備工事

発注者：飛騨森林管理署

本工事は、高山市奥飛騨温泉郷平湯国有林二一九〇林班内におい

て、溪間工コンクリート床固工を施工するもので、急峻な谷間を流れる土砂災害に備える堰堤を設置する治山工事です。

現場から上流域には、既に設置されている堰堤が三箇所ありますが、今回の施工箇所が約一、一〇〇立方メートルとなり、最も体積規模が大きい堰堤となります。

現場での役割、魅力

今回の工事では、起工測量、丁張かけを行いました。現場は標高一、五〇〇メートル付近で、初春のまだ残雪も多く厳しい条件で、時には積もった雪を除けながらの作業となりましたが、ひとつひとつ測点ポイントを押さえていき、丁張をかけていくと、堰堤を設置するための床掘りの形のイメージが出来上がりました。

ここから完成まで、たくさんの課題を限られた現場条件、環境のなかで、いかに効率よく、順序良くプロデュースしてクリアしていくかが、現場代理人として大切なことだと、一緒に作業をした先輩に指導していただきました。



完成した堰堤（最下流）

林業土木の世界に

入ったきっかけ

これまではまったく違う業種で勤務していましたが、また新たに何かにチャレンジしたいという気持ちで芽生え、妻の家族が経営する建設業に入社しました。

この業種は現場や現場内のチームメンバーも変わります。

また、森林、林業といった分野は、自然が相手なので現場環境も刻々と変化します。だから日々やることが、考えること、動くことも変化しますので、毎日が新鮮な気持ちでもあり、勉強の日々でもあります。

建設業で働くようになってから、人と自然の関わり合いをすごく意識するようになりました。特に森林、林業では現場で自然と触れ合うことで、四季を感じ、木々と向き合いながらパワーをもらっている気がします。何より自然の中で食べるお弁当は格別です。

未来の担い手へのメッセージ

現場も人も変化しながら仕事をするので、やりがいがありますし、色々な人と一つのを完成させる喜びも達成感もひとしおです。建設業に入る前は、皆恐い人ばかりというイメージがありましたが、入ってみると、実は皆さん心温かく優しい人が多いですし、人思いです。コミュニケーションは大事ですね。この仕事は、技術も人も磨ける職業だと思っています。



安全パトロールの状況